

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
スポーツコンディショニング2							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名		実務経験		
柔道整復学科・夜間部	1年	後期	西村 優一		○		
分野区分		教育課程		講義形式	単位	コマ数	
専門分野		臨床柔道整復学		実技	2	21	
科目概要							
柔道整復の基礎技術を用いたスポーツコンディショニングの目的・知識・技術を身に付ける。 各部位に対する外傷の保存療法、物理療法の取扱い方法を理解することができる。							
目標							
一般目標(GIO) <small>本講義を学習することで達成されるべき目標</small>	・スポーツ現場に必要な知識・技術を理解する。 ・スポーツ現場に必要な外傷の保存療法の技術を習得する。 ・スポーツ現場で使用する測定方法・評価方法の技術を習得する。 ・外傷後の競技復帰に向けたリハビリテーションの技術を習得する。 ・スポーツにおけるパフォーマンス向上のためのコンディショニング技術を習得する。 ・外傷予防のためのコンディショニング技術を習得する。 ・スポーツ外傷障害における保存療法の技術を習得する。						
	到達目標(SBO) <small>一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)</small>						
1. スポーツ現場で必要とされる姿勢・筋力・関節可動域・関節弛緩性・整形外科的検査法の基礎を習得し、実施できる。 2. スポーツ現場で必要とされる姿勢・筋力・関節可動域・関節弛緩性・整形外科的検査法の基礎を習得し、実施できる。 3. 外傷後の競技復帰に向けたアスレチックリハビリテーションの基礎を習得し、実施できる。 4. スポーツにおけるパフォーマンス向上及び外傷予防のための運動・手技・物理療法等を利用した具体的なコンディショニングの基礎を習得し、実施できる。 5. スポーツ外傷・障害における一後療法、一般的理学療法を基にした保存療法技術の基礎を習得し説明できる。							
履修に必要な予備知識や技能							
解剖学・生理学・運動学等の知識及びスポーツ現場に関わる様々な技能。							
教科書・参考書							
競技者の外傷予防							
受講上の注意							
白衣着用の上、私語厳禁とし能動的な受講。							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合(%)				100			100
実技試験実施要項							
回数	授業内容			教科書	教材・持ち物		
第1回	スポーツコンディショニングの目的・知識・技術に必要な知識				筆記用具		
第2回	外傷の保存療法①(緊急搬送)				筆記用具		
第3回	外傷の保存療法②(RICE処置)				筆記用具		
第4回	外傷の保存療法③(止血処置)				筆記用具		
第5回	外傷の保存療法④(熱中症・低体温症)				筆記用具		
第6回	外傷の保存療法⑤(外傷が引き起こす内科的疾患の対応)				筆記用具		
第7回	スポーツ現場の測定と評価①(姿勢・筋力・関節可動域)				筆記用具		
第8回	スポーツ現場の測定と評価②(関節弛緩性・その他)				筆記用具		
第9回	競技復帰に向けたリハビリテーション①				筆記用具		
第10回	競技復帰に向けたリハビリテーション②				筆記用具		
第11回	競技復帰に向けたリハビリテーション③				筆記用具		
第12回	パフォーマンス向上のためのコンディショニング①				筆記用具		
第13回	パフォーマンス向上のためのコンディショニング②				筆記用具		
第14回	外傷予防のためのコンディショニング①				筆記用具		
第15回	外傷予防のためのコンディショニング②				筆記用具		
第16回	スポーツ外傷における物理療法の取扱い				筆記用具		
第17回	スポーツ外傷・障害における保存療法①				筆記用具		
第18回	スポーツ外傷・障害における保存療法②				筆記用具		
第19回	スポーツ外傷・障害における保存療法③				筆記用具		
第20回	総復習				筆記用具		
第21回	総復習				筆記用具		
実務経験と本講義との関連について							
スポーツ現場に22年・接骨院4年・整形外科10年。アスリートはジュニア～プロまで、医療機関では子供から高齢者まで対応。その経験を活かしより実践的な講義を行う。							
メールアドレス							